

# 市川を調べる

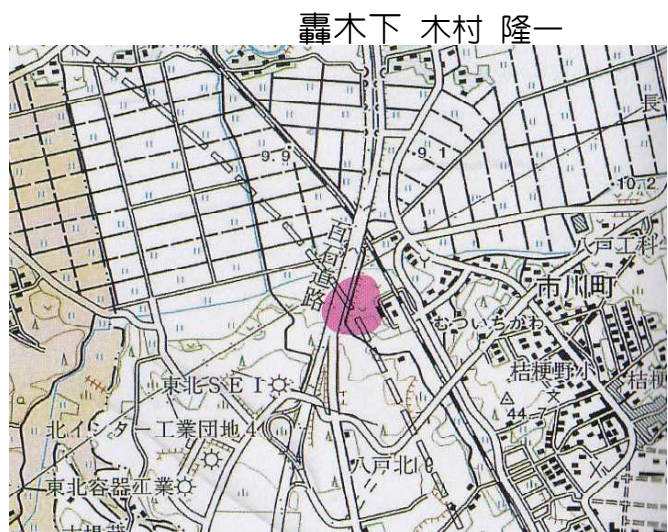
編集 市川を調べる会  
発行 八戸市立市川公民館

【お知らせ】 広報紙「市川を調べる」の各号がインターネットに掲載されています。  
※「市川を調べる会」にアクセス。(または、八戸市立市川中学校)

## 和野前山遺跡(2) 古代

【1】初めに 今回は、前回の和野前山遺跡(1)縄文時代に引き続き和野前山遺跡(2)古代について記す。古代とは原始から中世以前の時期のことであり、日本では奈良時代から平安時代のことを指す。

【2】遺跡の位置 位置に関する内容は前回と同じであるが、右の地図で示されている点線は東北新幹線であり、遺跡の下を通っている。=トンネル=(八戸～新青森間は、平成 22 年 12 月 4 日開通)



轟木下 木村 隆一

【3】遺跡の様子 和野前山遺跡の古代に関しては、平安時代の竪穴住居跡3棟、掘立柱建物2棟、焼土遺構3基が検出された。

竪穴住居跡の形態は、北壁にカマドを造る一辺4mの方形が一般的であるが、和野前山遺跡では一辺7mでカマドを南壁に造り、西壁に張り出し部を持つ。支柱穴は4個である。掘立柱建物跡は横幅3間、奥行2間で、2棟が並んで検出された。

遺物は、土師器<sup>はじき</sup>坏<sup>くわい</sup>・高台付坏<sup>かみ</sup>・甕<sup>すえ</sup>・鉢<sup>はち</sup>・須恵器<sup>すゑ</sup>坏<sup>くわい</sup>・壺<sup>つぎ</sup>・砥石<sup>と</sup>・土製紡錘車<sup>ぼうすいしゃ</sup>などが出土した。特徴的な遺物として、スギを使用した口ク口挽の木製皿や墨書土器<sup>ぼくしよ</sup>が5点出土した。 ※坏⇒土器の形の一種で、酒杯・食物入れ等に使用  
遺物の特徴から、この遺跡は9世紀前半期(およそ1200年前)に営まれた集落跡と考えられ、また、本集落はこの区域から東側へさらに広がっている可能性が高い。

〈遺跡の位置(再掲)〉

※土師器⇒素焼き土器の総称 ※須恵器⇒青灰色等の土器 ※墨書土器⇒墨で文字や人の顔を書いた土器



〈須恵器 長頸 壺(くびの長い壺)〉



〈土製 紡錘車(糸つむぎの器具)〉

【資料】

「新編 八戸市史 考古資料編」・「県教委 和野前山遺跡」

